

大島成己（おおしま・なるき）

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <http://www.naruki-oshima.org/>

Twitter : <https://twitter.com/oshimamaruki>

Instagram : <https://www.instagram.com/oshimamaruki/>

美術家。多摩美術大学美術学部絵画学科版画専攻教授。

1963年大阪府生まれ。2010年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。“視ること－世界との新たな関係の取り方”という考えのもと、主に写真を表現手段に用いて、遠近感を崩していく方法を通じ、日常的な空間解釈にズレを持ち込み、被写体イメージを構成する光・色彩、そして触覚感を増幅させる表現を試みる。その作品では日常的な意味性は弱められ、「映像的な現象の刹那的な奇妙さ」が強度をもって私たちの眼前に提示される。2001年のトーマス・ルフ教室（ドイツ）での研究を機に、2003年ロッテルダム国際建築ビエンナーレ、2004年ヴェネチア・ビエンナーレへの選出をはじめ、ヨーロッパ圏でも精力的に作品を発表している。

略歴

- 1963年 大阪市に生まれる
- 2000年 大阪府・関西ドイツ文化センター主催芸術家交流事業プログラム「Art-Ex」に参加。
ドイツ・デュッセルドルフ市の招待芸術家として公営アトリエにて制作研究滞在
- 2001年 平成13年度文化庁在外派遣芸術家研修プログラム 研修員 (-'02)
ドイツ・デュッセルドルフ芸術アカデミー、トーマス・ルフ(Thomas Ruff)教室にて研究 (-'03)
- 2010年 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了 博士(美術)取得

主な個展

- 1987年 「大島成己展」ON ギャラリー（大阪）
- 1991年 「大島成己展」インターフォームアトリエ（大阪）
- 1993年 「イトーキアートプログラムvol.8 大島成己」イトーキクリスタルホール（大阪）
- 1994年 「大島成己展」ギャラリービュー（大阪）
- 1996年 「大島成己展」シティギャラリーI・M（大阪）
- 1998年 「大島成己展」番画廊（大阪）
- 1999年 「大島成己展」複眼ギャラリー（大阪）
- 2000年 「ドイツにおける日本年 Naruki Oshima, photography」クンストラウム・デュッセルドルフ
（デュッセルドルフ、ドイツ）
「関西ドイツ文化センター」（大阪）
- 2001年 「大島成己展」信濃橋画廊（大阪）
- 2002年 「Contemporary Art From Japan to Finland 2002」フィンランド美術家協会Gallery G（ヘルシンキ、フィンランド）
- 2004年 「夜の色 名付け得ぬもの」信濃橋画廊（大阪）
- 2006年 「Reflections」ノマル・プロジェクトスペース キューブ & ロフト（大阪）
「Galerie Heinz - Martin Weigand」（カールスルーエ、ドイツ）
- 2008年 「Reflections」 Gallery White Room Tokyo（東京）
- 2009年 「Reflections」ギャラリーノマル（大阪）
- 2011年 「haptic green」ギャラリーノマル（大阪）

- 「haptic green」 NextLevel Galerie (パリ, フランス)
 2014年 「Solo Exhibition by Naruki Oshima」 ギャラリーグランシークル (台北, 台湾)
 「haptic green / 緑の触覚」 SUNDAY (東京)
 「Featured Works: haptic green」 NextLevel Galerie (パリ, フランス)
 2015年 「Figures」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
 2018年 「Tableau/Bibémus: with Cezanne」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
 2019年 「Still Life on a Table」 eN arts (京都)

主なグループ展

- 1989年 「特別展,版から / 版へ—京都 1989」 京都市美術館 (京都)
 1990年 「シガアニュアル '90, 写真による現代版画」 滋賀県立近代美術館 (滋賀)
 1991年 「現代美術 '91, 素材はいろいろ」 徳島県立近代美術館 (徳島)
 1992年 「Print Art Lab.」 ノマルエディション・エキシビットスペース (大阪)
 「アートナウ '92, 12人の実践/90年代美術の新地平」 兵庫県立近代美術館 (兵庫)
 1993年 「京都選抜展, 次代を担う作家」 京都府立文化芸術会館 (京都)
 1994年 「現代の版画 '94」 渋谷区立松涛美術館 (東京)
 「光と影—うつろいの詩学」 広島市現代美術館 (広島)
 1995年 「THE TREE part 2」 笹川平和財団 (ワシントン, アメリカ)
 「人間像のゆくえ—所蔵作品選 1995」 徳島県立近代美術館 (徳島)
 「済洲島プレビエンナーレ」 文芸会館 (済洲, 韓国)
 「画廊の視点 '95」 大阪府立現代美術センター (大阪)
 1996年 「現代版画の魅力」 神戸アートヴィレッジセンター (兵庫)
 1997年 「芸術祭典—京—思い出のあした」 京都市美術館 (京都)
 1999年 「時代の表情—反表情, 日本の版画1945-1999」 町田市立国際版画美術館 (東京)
 「新収蔵展 1999-1」 京都市美術館 (京都)
 2001年 「Maxi Grafica extention」 京都市美術館 (京都)
 2002年 「ノルドライン・ヴェストファーレン州の美術」 ノルドライン・ヴェストファーレン州文化科学省 (ノルドライン・ヴェストファーレン, ドイツ)
 「トーマス・ルフ教室から…」 ギャラリー・ハウス・シュナイダー (カールスルーエ, ドイツ)
 2003年 「Trailer show」 ギャラリー・シェーン (ポーフム, ドイツ)
 「第一回ロッテルダム国際建築ビエンナーレ」 (ロッテルダム, オランダ)
 「City Scape」 ギャラリー・ハウス・シュナイダー (カールスルーエ, ドイツ)
 「TAMA VIVANT 2003—とらえられたかたち」 多摩美術大学 (東京)
 2004年 「Multiples」 ノマルエディション/プロジェクトスペース cube & loft (大阪)
 「第9回ヴェネチア・ビエンナーレ・写真部門 -Morphing Lights, Floating Shadows」 イタリア館及びアルセナール (ヴェネチア, イタリア)
 「版の記憶 / 現在 / 未来」 東京芸術大学美術館 陳列館 (東京)
 「Night on Earth-Bilder der Nacht」 LUMAS Editions-galerie (ベルリン, ドイツ)
 2005年 「DOMANI 明日 2005」 損保ジャパン東郷青児美術館 (東京)
 「Edited Reality - Neues von der Kunstakademie Dusseldorf」 LUMAS Editions-galerie(ハンブルグ, ドイツ)
 2006年 「コレクション3: 現代日本の写真、風景の記憶/記憶の風景」 国立国際美術館 (大阪)
 2007年 「Appearance | 写真表現と現代空間の深層」 代官山ヒルサイドテラス・ヒルサイドフォーラム (東京)
 2008年 「Paris Photo 2008, ステートメント部門」 カルーセル・デュ・ルーヴル, (パリ, フランス)
 2009年 「Reborn」 ギャラリーノマル (大阪)
 「おもろいやつら—人間像でみる関西の美術」 徳島県立近代美術館 (徳島)

- 2010年 「あいちアートの森－アートが開くあいちの未来：堀川プロジェクト」 東陽倉庫テナントビル（愛知）
「Viewing City - Shanghai Intl Printmaking Exhibition 2010」 上海虹橋現代美術館（上海, 中国）
- 2011年 「まなごしの哲学－京都嵯峨芸術大学の40年」 京都市美術館 別館（京都）
「BOX」 ギャラリーノマル（大阪）
- 2012年 「Redefining The Multiple: Thirteen Japanese Printmakers」 テネシー大学美術建築学部附属美術館 / Ewing gallery / UT Downtown Gallery（テネシー, アメリカ 他全米各地を巡回）（-'15）
「写真分離派展『写真+』」 中京大学アートギャラリーC・スクエア（愛知）
「PEKE 1, Talk Session and Exhibiton, session 6: 大島成己 x 梅原悟」 ギャラリーノマル（大阪）
- 2013年 「PATinKyoto・京都版画トリエンナーレ」 京都市美術館（京都）
- 2014年 「cognition/recognition」 UltraSuperNew GALLERY（東京）
「Favorite Books」 ギャラリーノマル（大阪）
- 2015年 「Festival Phot'Aix 2015」（エクス＝アン＝プロヴァンス, フランス）

アンドレアス・グルスキー

関連 URL・SNS 情報

Web : <https://www.andreasgursky.com/en>

アンドレアス・グルスキーは写真表現を拡張した世界で最も重要な写真家の一人と考えられています。既に独自の地位を獲得している彼の複雑で大判のカラーの写真作品は、技術的な技巧と絵画的な目を組み合わせながら、壮大な風景と精巧なインテリアを表出させています。彼の作品は、グローバリゼーションの時代に執拗な視線を投げかけ、現代の生活に対する資本主義の影響を厳密に分析していると言えるでしょう。初期作品に《Gas Cooker》（1980）、《Storeroom》（1981）などがあります。

略歴

1955年 旧東ドイツのライプツィヒ生まれ

1977-1980年 エッセンのフォルクヴァング芸術大学で、ヴィジュアル・コミュニケーションを専攻

1980-1987年 デュッセルドルフ芸術アカデミーで、ベルント・ベッヒャーに師事

2010-2018年 デュッセルドルフ芸術アカデミー 教授

現在 デュッセルドルフ在住

個展

2001年 「アンドレアス・グルスキー展」、ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク, アメリカ合衆国）

2002年 「アンドレアス・グルスキー展」、ポンピドゥーセンター（パリ, フランス）

2003年 「アンドレアス・グルスキー展」、サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ, アメリカ合衆国）

2013年 「アンドレアス・グルスキー展」、国立新美術館（東京）

2014年 「アンドレアス・グルスキー展」、国立国際美術館（大阪）

グループ展

2014年 「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」、広島市現代美術館（広島）

2015年 「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」、京都国立近代美術館（京都）

2015年 「All the World's Futures」第56回ヴェネチア・ビエンナーレ企画展（ヴェネチア, イタリア）

2016年 「宇宙と芸術展」、森美術館（東京）

トーマス・シュトゥルト

関連 URL・SNS 情報

Instagram : https://www.instagram.com/thomasstruth_official/

写真家。1954年ドイツ生まれ。ベルリン在住。

デュッセルドルフ美術アカデミーでゲハルト・リヒターのもとで絵画を学んだ後、ベルント&ヒラ・ベッヒャー夫妻に写真を学ぶ。都市の街路や建築を被写体とする《街路》シリーズでは、私的な見方を排除し、社会の生活様式や思考様式などを顕在化させた。また、個人や家族を大型カメラで撮影する《肖像》シリーズ、名画とそれが受容される場を映し出した《美術館》シリーズ、宇宙ステーションや手術室などの技術産業や科学的な研究が生み出した場所を撮影した《自然と政治》シリーズ、世界各地のジャングルで撮影した《パラダイス》シリーズなどが代表作としてあげられる。

ピナコテーク・デア・モデルネ（ミュンヘン）、ポンピドゥーセンター（パリ）、アカデミア美術館（フィレンツェ）、東京国立近代美術館（東京）、アムステルダム市立美術館（アムステルダム）、グッゲンハイム美術館（ニューヨーク）、シカゴ美術館（シカゴ）、ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク）、テートギャラリー（ロンドン）などのコレクションに収蔵されている。

略歴

- 1954年 ドイツ・ゲルデルン生まれ
- 1973-78年 デュッセルドルフ美術アカデミーで学ぶ
- 1978年 ニューヨークに留学（デュッセルドルフ美術アカデミー奨学金）
- 1997年 ニーダーザクセン財団スペクトラム国際写真賞 受賞
- 2014年 英国王立建築家協会名誉会員
- 2016年 アメリカ芸術文学アカデミー海外名誉会員
- 2016年 ロンドンの英国王立写真協会名誉会員
- 2018年 ベルギー王立美術アカデミー名誉修士学位

個展

- 1987年 ベルン美術館（ベルン, スイス）
- 1994年 ICAボストン（ボストン, アメリカ合衆国）
- 1998年 カレダール（ニーム現代美術&マスメディア資料館）（ニーム, フランス）
- 1998年 アムステルダム市立美術館（アムステルダム, オランダ）
- 2000年 「トーマス・シュトゥルト：マイポートレート」東京国立近代美術館（東京）、京都国立近代美術館（京都）
- 2002年 「Thomas Struth 1977 - 2002」（巡回展）、ダラス美術館（テキサス, アメリカ合衆国）ほか (-2003)
- 2007年 「Thomas Struth: Making Time」プラド美術館（マドリッド, スペイン）
- 2010年 「Thomas Struth Photographs 1978 - 2010」（巡回展）チューリヒ美術館（チューリヒ, スイス）ほか (-2011)
- 2014年 メトロポリタン美術館（ニューヨーク, アメリカ合衆国）
- 2016年 「Nature & Politics」（巡回展）フォルクヴァンク美術館（エッセン, ドイツ）ほか (-2019)
- 2017年 「Thomas Struth」（巡回展）ハウス・デア・クンスト（ミュンヘン, ドイツ）、ビルバオ・グッゲンハイム美術館（ビルバオ, スペイン） (-2019)

グループ展

- 1987年 ミュンスター彫刻プロジェクト（ミュンスター、ドイツ）
- 1990年 ヴェネチア・ビエンナーレ（ヴェネツィア、イタリア）
「移行するイメージ：1980年代の映像表現」 京都国立近代美術館（京都）/東京国立近代美術館（東京）
- 1992年 「ファミリー・アルバム 変容する家族の記録」 東京都写真美術館（東京）
ドクメンタ9（カッセル、ドイツ）
- 1996年 「ドイツ現代写真展」 川崎市市民ミュージアム（神奈川）/京都国立近代美術館（京都）/栃木県立美術館（-1997）（栃木）
- 1997年 「失われた風景—幻想と現実の境界失われた風景」 横浜美術館（神奈川）
- 1998年 シドニー・ビエンナーレ（シドニー、オーストラリア）
- 2000年 リヨン・ビエンナーレ（リヨン、フランス）
- 2002年 「Passenger」 アストラップ・フェアリー近代美術館（オスロ、ノルウェー）
「Moving Pictures, Solomon R」 グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ合衆国）
- 2003年 「Cruel and Tender」 ルートヴィヒ美術館（ケルン、ドイツ）
「ハピネス」 森美術館（東京）
- 2004年 「第26回サンパウロ・ビエンナーレ」（サンパウロ、ブラジル）
- 2005年 「25 Deutsche Bank, 25th Anniversary of the Deutsche Bank Collection」 ドイツ・グッゲンハイム（ベルリン、ドイツ）
「Universal Experience: Art Life, and the Tourist's Eye」 シカゴ現代美術館（シカゴ、アメリカ合衆国）
- 2006年 「Faste !Bigger! Better! Zentrum für Medientechnologie」 カールスルーエ・アート・アンド・メディア・センター（カールスルーエ、ドイツ）
「Edward Steichen Photography Gallery」 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ合衆国）
- 2008年 「アートは心のためにある：UBSアートコレクション」 森美術館（東京）
- 2009年 「Picturing New York: Photographs from the Museum of Modern Art, curated by Sarah Hermanson Meister」 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ合衆国）
- 2010年 「Dreamlands, Centre Georges Pompidou」 国立近代美術館（パリ、フランス）
「Summer Loves」 ハイス・マルセイユ写真美術館（アムステルダム、オランダ）
- 2013年 「Through the Eyes of Texas: Masterworks from Alumni Collections」 ブラントン美術館（オースティン、アメリカ合衆国）
「7. Lanzarote Art Biennale, Fundación Helge Achenbach und Sammlung Rheingold Weltreise」 カールスルーエ・アート・アンド・メディア・センター（カールスルーエ、ドイツ）
「Le Théorème de Néfertiti」 マトハフ・アラブ近代美術館（ドーハ、カタール）
- 2014年 「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」 東京国立近代美術館（東京）、2015/京都国立近代美術館（京都）
- 2015年 「そこにある、時間—ドイツ銀行コレクションの現代写真」 原美術館（東京）
「No Museum, No Life?—これからの美術館事典」 京都国立近代美術館（京都）
「This Place」 ブルックリン美術館（ニューヨーク、アメリカ合衆国）
- 2017年 「Dem Bild gegenüber」 アルクマール市立美術館（アルクマール、オランダ）
「Ettore Sottsass: Design Radical」 メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ合衆国）、北京民生現代美術館（北京、中国）

妹島和世（せじま・かずよ）

建築家。現在ミラノ工科大学教授、横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA教授。

1987年妹島和世建築設計事務所設立。1995年西沢立衛とともにSANAAを設立。2010年第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の総合ディレクターを務める。日本建築学会賞*、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞*、プリツカー賞*、芸術文化勲章オフィシエ、紫綬褒章などを受賞。主な建築作品として、金沢21世紀美術館*(金沢市)、Rolexラーニングセンター*(ローザンヌ・スイス)、ルーヴル・ランス*(ランス・フランス)などがある。

*はSANAAとして。

略歴

- 1956年 茨城県生まれ
- 1981年 日本女子大学大学院修了
- 1981年 伊東豊雄建築設計事務所入所
- 1987年 妹島和世建築設計事務所設立
- 1995年 西沢立衛とSANAA設立

主なプロジェクト

妹島和世建築設計事務所

- 2010年 犬島「家プロジェクト」1期
- 2013年 京都の集合住宅
- 2015年 なかまちテラス（小平市仲野町公民館・図書館）
- 2016年 すみだ北斎美術館
- 2018年 大阪芸術大学アートサイエンス学科棟
- 2019年 日本女子大学目白キャンパス（図書館棟）

SANAA

- 2004年 金沢21世紀美術館
- 2006年 トレド美術館ガラスパビリオン
- 2007年 ニューミュージアム
- 2009年 ROLEXラーニングセンター
- 2012年 ルーヴル・ランス
- 2014年 宮戸島月浜のみんなの家
- 2015年 グレイス・ファームズ

トーマス・デマンド

1964年ドイツのミュンヘン生まれ。90年代から報道写真等を元にペーパー・クラフトによる彫刻を作成・撮影し、人々の記憶の中にあるイメージを再現する手法を確立する。撮影のために制作された紙による舞台装置が撮影後に廃棄されることは、作品の内包する空虚さに通じる。歴史的事件の現場を捉えた新聞写真などを紙の模型で再現するその作品は、メディアを通して流通するイメージによって形成された歴史やリアリティーについての鋭い批評ともなっている。

略歴

- 1964年 ドイツ、ミュンヘン生まれ
- 1987年 ミュンヘン造形芸術アカデミーでインテリアデザインを学ぶ
- 1990年 デュッセルドルフアカデミーで彫刻・建築模型制作
- 1993年 ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジに入学
- 2010年 ゲッティ研究所に研究員として滞在

主な個展

- 2005年 「個展」 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ合衆国）
- 2006年 「個展」 サーペンタイン・ギャラリー（ロンドン、イギリス）
- 2009年 「個展」 ベルリン新国立美術館（ベルリン、ドイツ）
- 2012年 「個展」 東京都現代美術館（東京）

グループ展

- 2003年 「第50回ヴェネチア・ビエンナーレ」（ヴェネチア、イタリア）
- 2004年 「サンパウロ・ビエンナーレ」（サンパウロ、ブラジル）
- 2005年 「ドイツ写真の現在 - かわりゆく「現実」と向かいあうために」 東京国立近代美術館（東京）
- 2008年 「光州ビエンナーレ」（光州、中国）
「ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」（ヴェネチア、イタリア）
- 2009年 「ビデオを待ちながら：映像、60年代から今日へ」 東京国立近代美術館（東京）
- 2010年 「ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」（ヴェネチア、イタリア）

野口里佳（のぐち・りか）

関連 URL・SNS 情報

Web : <https://noguchirika.com/>

写真家。1971年埼玉県生まれ。1994年日本大学芸術学部写真学科卒業。

1993-96年に制作された「創造の記録」で第5回ひとつぼ展グランプリを受賞。その後、「潜る人」（1996）で写真新世紀のグランプリを受賞。微視と巨視を行き来するような独自の視点、人間の謎に触れるような対象の選択、その透明な色彩と詩情豊かな表現力は国内外から高い評価を受け、写真の世界だけにとどまらず現代美術の国際展にも数多く参加している。

東京国立近代美術館、国立国際美術館、東京都写真美術館、金沢21世紀美術館、IZU PHOTO MUSEUM、ロサンゼルス現代美術館（ロサンゼルス）、グッゲンハイム美術館（ニューヨーク）、ポンピドゥーセンター（パリ）などに作品が収蔵されている。

略歴

沖縄県那覇市在住。

1971年 埼玉県大宮市（現さいたま市）生まれ。

1994年 日本大学芸術学部写真学科卒業

1996年 東京都西多摩郡日の出町の第4回日の出町アーティスト・イン・レジデンスに参加

1997年 アジアン・カルチュラル・カウンシルの個人フェローシップによりニューヨークに滞在

1999年 ライクスアカデミー（アムステルダム, オランダ）にゲストアーティストとして招聘される（1999/2000）

2004年 ベルリンに転居（2016までベルリン在住）

2005年 ポーラ美術財団のフェローシップによりドイツ及び東アフリカに滞在

2016年 沖縄県に転居

主な個展

1995年 「潜る人」ギャラリー楽風（埼玉）

1996年 「創造の記録」ガーディアン・ガーデン（東京）

1997年 「鳥を見る」ひがしかわアートギャラリー（北海道）

「フジヤマ」P3 art and environment（東京）

1998年 「Seeing Birds」ギャラリーヴォンマシーネ（ベルリン, ドイツ）

1999年 「野口里佳」ギャラリー小柳（東京）

2001年 「野口里佳写真展一果たして月に行けたか？」パルコギャラリー（東京）

「Did He Reach the Moon?」ダメリオテラス（ニューヨーク, アメリカ合衆国）

「MIMOCA'S EYE VOL.1: 野口里佳展 [予感]」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）

2002年 「水をつかむ」ギャラリー小柳（東京）

2004年 「Somebodies」アイコンギャラリー（バーミンガム, イギリス）

「飛ぶ夢を見た 野口里佳」原美術館（東京）

2005年 「I Dreamt of Flying」ダメリオテラス（ニューヨーク, アメリカ合衆国）

2006年 「Color of the Planet」DAADギャラリー（ベルリン, ドイツ）

2007年 「The Sun」モンギンアートセンター（ソウル, 韓国）

「マラブ・太陽」ギャラリー小柳（東京）

2009年 「The Sun」ダメリオテラス（ニューヨーク, アメリカ合衆国）

- 2011年 「光は未来に届く」 IZU PHOTO MUSEUM (静岡) (-2012)
- 2013年 「A Man and Some Birds」 ロックギャラリー (ベルリン, ドイツ) (-2014)
- 2014年 「父のアルバム / 不思議な力」 Gallery 916 (東京)
- 2015年 「夜の星へ」 キャノンギャラリー S (東京)
- 「鳥の町」 ギャラリー小柳 (東京)
- 2016年 「To the Night Planet」 ロックギャラリー (ベルリン, ドイツ)
- 2017年 「海底」 タカイシイギャラリー (東京)
- 2021年 「野口里佳 ポスタープロジェクト」 アートエリアB1 (大阪)

主なグループ展

- 1995年 「第5回 写真『3.3m²展』」 ガーディアン・ガーデン (東京)
- 1996年 「第5回 写真新世紀展」 P3 art and environment (東京)
- 1999年 「プライベートルーム II - 新世代の写真表現」 水戸芸術館現代美術センター (茨城)
- 2000年 「Japan Medium Light」 モンテヴィデオ (アムステルダム, オランダ)
- 「Sensitive」 プランタン・デュ・カオール (ロット, フランス)
- 2001年 「Facts of Life: Contemporary Japanese Art」 ヘイワードギャラリー (ロンドン, イギリス)
- 「スタンダード」 直島コンテンポラリーアートミュージアム (現ベネッセアートサイト直島) (香川)
- 「ficção/fotografias e vídeos na coleção da caisse des dépôts」 ブラジル銀行文化センター (リオデジャネイロ, ブラジル)
- 2002年 「アンダー・コンストラクション: アジア美術の新世代」 東京オペラシティアートギャラリー (東京) / 国際交流基金フォーラム (東京)
- 「Moving Pictures」 ソロモン・R・グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク, アメリカ合衆国)、グッゲンハイム美術館ビルバオ館 (ビルバオ, スペイン)
- 「写真新世紀10周年記念展 Futuring Power」 東京都写真美術館 (東京)
- 「写真の現在2: サイト一場所と光景」 東京国立近代美術館 (東京)
- 「Under Construction/Fantasia」 遠洋芸術センター (北京, 中国)
- 「Time After Time: Asia and Our Moment」 イェルバブエナ芸術センター (サンフランシスコ, アメリカ合衆国)
- 2004年 「コモン・スケープ 今日の写真における日常へのまなざし」 宮城県美術館 (宮城)
- 2005年 「風景遊歩 sight-cruising」 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (香川)
- 2006年 「Les Peintres de la vie Moderne— Donation— Collection Photographique de la Caisse des Dépôts」 ポンピドゥー・センター (パリ, フランス)
- 「PHOTOESPAÑA 2006—Naturaleza: Experiencia」 ミュゼオ・サン・ローマン (トレド, スペイン)
- 2007年 「Brave New Worlds」 ウォーカー・アート・センター (ミネアポリス, アメリカ合衆国)、ユメックス・コレクション (メキシコシティ, メキシコ) (-2008)
- 「第8回シャルジャ・ビエンナーレ: STILL LIFE, ART ECOLOGY & THE POLITICS OF CHANGE」 シャルジャ美術館、シャルジャ・エキスポセンター (シャルジャ, アラブ首長国連邦)
- 「夏への扉—マイクロポップの時代」 水戸芸術館現代美術ギャラリー (茨城)
- 2008年 「第55回カーネギー・インターナショナル: Life on Mars」 カーネギー美術館 (ピッツバーグ, アメリカ合衆国)
- 2009年 「光 松本陽子 / 野口里佳」 国立新美術館 (東京)
- 「The Camera Show」 フォトガレリエ (オスロ, ノルウェー)
- 2010年 「Negotiation—Today's Documents 2010」 今日美術館 (北京, 中国)
- 2011年 「Drift— an exploration of urban & suburban landscapes」 シャルジャ・アート・ファンデーション (シャルジャ, アラブ首長国連邦)

- 「ヨコハマトリエンナーレ2011: OUR MAGIC HOUR ―世界はどこまで知ることができるか?―」
横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫（神奈川）
- 「眞實, 試煉, 與魔幻 台日當代攝影聯展」易雅居進口家俱當代空間（台北, 台湾）
- 「Still and Sparkling」ガゼリ・アート・ハウス（ロンドン, イギリス）
- 2012年 「The Living Years」ウォーカー・アート・センター（ミネアポリス, アメリカ合衆国）(-2015)
- 2013年 「ふたたびの出会い」IZU PHOTO MUSEM（静岡）
「この星の上で」ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
「Re: Quest-1970年以降の日本現代美術」ソウル大学美術館（ソウル, 韓国）
「小さな世界へようこそ」高松市美術館（香川）
- 2014年 「開館35周年記念 原美術館コレクション展」原美術館（東京）
「コレクション展II」金沢21世紀美術館（石川）
「Non-Prifit & Profit」Spazio A & Uscita Pistoia（ピストイア, イタリア）
「MOMAT コレクション」国立近代美術館（東京）
- 2016年 「さいたまトリエンナーレ 2016」武蔵浦和駅～中浦和駅周辺など（埼玉）
- 2017年 「開館25周年記念MIMOCAコレクション じつはいろいろあるんです！」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
- 2018年 「第21回シドニービエンナーレ “SUPERPOSITION: Art of Equilibrium and Engagerment」（シドニー, オーストラリア）
「Floating World” リューヤショップ」（バグダッド, イラク）
「永遠に、そしてふたたび」Izu Photo Museum（静岡）
「コレクション展 アジアの風景/栗津潔、マクリヒロゲル5」金沢21世紀美術館（石川）
- 2019年 「コレクション3 見えないもののイメージ」国立国際美術館（大阪）
- 2020年 「瞬く皮膚、死から発光する生」足利市美術館（栃木）
「ふたつのまどか」DIC川村記念美術館（千葉）

畠山直哉（はたけやま・なおや）

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/4374/>

写真家。1958年岩手県生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻教授。
筑波大学芸術専門学群にて大辻清司に写真を学ぶ。1982年初めての写真集「等高線」を出版。1984年に同大学院芸術研究科修士課程修了。東京を拠点に活動を行い、自然・都市・写真のかかわり合いに主眼をおいた一連の作品を制作する。第22回木村伊兵衛写真賞、第42回毎日芸術賞、2011年度芸術選奨文部科学大臣賞など受賞多数。また、2012年には第13回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館へ参加、金獅子賞受賞。作品はMoMA（ニューヨーク近代美術館）、Tate、東京国立近代美術館など、世界主要都市の美術館に数多く収集されている。

略歴

- 1958年 岩手県陸前高田市生まれ
- 1981年 筑波大学芸術専門学群総合造形コース卒業
- 1984年 筑波大学大学院芸術研究科修士課程デザイン専攻修了
- 1997年 第22回木村伊兵衛写真賞受賞
- 2000年 第16回東川賞国内作家賞受賞
- 2001年 第42回毎日芸術賞受賞
第49回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館参加
- 2003年 日本写真協会年度賞受賞
- 2012年 芸術選奨文部科学大臣賞受賞
第13回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館参加（金獅子賞受賞）

主な個展

- 1983年 「等高線」 ツァイト・フォト・サロン（東京）
- 1988年 「Lime Hills」 ツァイト・フォト・サロン（東京）
- 1989年 「等高線」 エルーヴィル劇場（カン, フランス）、アルトテック・ドゥ・ナント（ナント, フランス）、ファレーズ市立図書館巡回（ファレーズ, フランス）
- 1990年 「A travers la Tunisie」 アラブ世界研究所（パリ, フランス）
- 1994年 「The City and its Origin」 フォックス・タルポット博物館（ラコック, イギリス）
- 1996年 「Lime Woks」 ローマ日本文化会館 / ディアゴナーレ・マルチメディア・センター（ローマ, イタリア）
- 1997年 「Lime Woks」 ミノルタフォトスペース（東京, 大阪ほか）
- 2001年 「UNDER CONSTRUCTION」 （畠山直哉, 伊東豊雄） AA スクール（ロンドン, イギリス） / コロンビア大学建築ギャラリー（ニューヨーク, アメリカ合衆国）
- 2002年 「Slow Glass」 イギリス各地を巡回
「Naoya Hatakeyama」 ハノーヴァー美術協会（ハノーヴァー, ドイツ） / クンストハレ・ニュルンベルク（ニュルンベルク, ドイツ） / ハウス・マルセイユ写真財団（アムステルダム, オランダ）
「畠山直哉写真展」 岩手県立美術館（青森） / 国立国際美術館（大阪）
- 2003年 「Naoya Hatakeyama」 アルル国際写真の出会い（アルル, フランス）
「Naoya Hatakeyama」 BBK 財団（ビルバオ, スペイン）
- 2004年 「Naoya Hatakeyama」 C/O Berlin（ベルリン, ドイツ）

- 2005年 「Naoya Hatakeyama」 クンストハレ・ザンクト・アネン (リューベック, ドイツ)
- 2006年 「二つの山 - 畠山直哉 バルタザール・ブルクハルト-」 東京アートミュージアム (東京)
- 2007年 「Draftsman's Pencil」 (今日の作家XI: 鷺見和紀郎・畠山直哉) 神奈川県立近代美術館 (神奈川)
- 「Naoya Hatakeyama」 アルルの出会い (アルル, フランス)
- 2010年 「Terrils」 ルワルド鉱業歴史センター (ルワルド, フランス)
- 「Blast」 草場地撮影季 (北京, 中国)
- 「Scales」 大和日英基金 (ロンドン, イギリス)
- 2011年 「Natural Stories」 東京都写真美術館 (東京) / ハウス・マルセイユ写真財団 (アムステルダム, オランダ)
- 2012年 「Natural Stories」 サンフランシスコ近代美術館 (サンフランシスコ, アメリカ合衆国)
- 2016年 「まっぴたつの風景」 せんだいメディアテーク (宮城)
- 「Underground / Water」 タカ・イシイギャラリー (東京)、フォトグラフィーパリ (パリ, フランス)
- 2017年 畠山直哉 「Rikuzentakata」 Museo de Arte e Historia de Guanajuato (レオン, メキシコ)
- 2018年 「Excavating the Future City: Photographs by Naoya Hatakeyama」 ミネアポリス美術館 (ミネアポリス, アメリカ合衆国)

主なグループ展

- 1985年 「パリ・ニューヨーク・東京」 つくば写真美術館 (茨城)
- 1986年 「現代日本写真展」 ラ・カーサ・エリサルダ (バルセロナ, スペイン) ほかスペイン巡回
- 1990年 「日本のコンテンポラリー - 写真をめぐる12の指標」 東京都写真美術館 (東京) / パヴィヨン・デザール (パリ, フランス)
- 1993年 「岩に染み入る蟬の声 - 現代日本写真展」 クンストハウス・チューリッヒ (チューリッヒ, スイス)
- 1996年 「ランド・オブ・パラドックス」 フォトグラフィック・リソース・センター (ボストン, アメリカ合衆国) ほか アメリカ巡回、芦屋市美術博物館 (兵庫) ほか日本巡回 (-1998)
- 1997年 「都市のイメージ 東京国立近代美術館の写真コレクションより」 東京国立近代美術館フィルムセンター (東京)
- 「時間/視線/記憶 - 90年代美術にみる写真表現-」 東京都現代美術館 (東京)
- 「写真の現在-距離の不在」 東京国立近代美術館フィルムセンター (東京)
- 1999年 「目の及ばぬところ (写真トリエンナーレ)」 ダイヒトアハレン (ハンブルク, ドイツ)
- 「伊東豊雄: 透層する建築」 ズーエモント・ルートヴィヒ美術館 (アーヘン, ドイツ)
- 2000年 「現代写真における風景」 オルデンブルク州立博物館 (オルデンブルク, ドイツ)
- 2001年 「バウアート ハイデルベルクセメント社コレクション展」 クアプファルツ博物館 (ハイデルベルク, ドイツ)
- 「ファースト&スロウ」 第49回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館 (ヴェネチア, イタリア)
- 「アウト・オブ・ジャパン」 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館 (ロンドン, イギリス)
- 2002年 「未完の世紀: 20世紀美術がのこすもの」 東京国立近代美術館 (東京)
- 「12人の挑戦-大観から日比野まで」 水戸芸術館現代美術センター (茨城)
- 2003年 「日本写真史」 ヒューストン美術館/クリーヴランド美術館 (ヒューストン, アメリカ合衆国)
- 「スケールの遊戯」 ガイエゴ現代美術センター (サンティアゴ・デ・コンポステラ, スペイン)
- 「第10回国際写真ビエンナーレ」 トリノ (トリノ, イタリア)
- 「自然の消費」 コロンビア・カレッジ・シカゴ現代写真美術館 (シカゴ, アメリカ合衆国)
- 「心の在り処 - 日本の現代美術-」 ルードヴィヒ美術館 (ブダペスト, ハンガリー) / モスクワ市現代美術館 (モスクワ, ロシア)
- 2004年 「六本木クロッシング: 日本美術の新しい展望2004」 森美術館 (東京)
- 「メタモルフ」 ヴェネツィア・ビエンナーレ第9回国際建築展 (ヴェネチア, イタリア)

- 「現実を信じますか？」（台北ビエンナーレ）台北市立美術館（台北, 台湾）
- 「コレクション2」国立国際美術館（大阪）
- 2006年 「トンネル・ヴィジョン」アントワープ写真美術館（アントワープ, ベルギー）
- 「コレクション3」国立国際美術館（大阪）
- 「二つの山」ザルツブルグ近代美術館（ザルツブルグ, オーストリア）
- 「不完全な世界：UBS アートコレクションより」ニューサウスウェールズ州立美術館（シドニー, オーストラリア）、国立ヴィクトリア美術館（メルボルン, オーストラリア）
- 2007年 「アートの変温層—新しいアジアの波」（ZKM10周年展）ZKM現代美術館（カールスルーエ, ドイツ）
- 「地図、宇宙発生論、および基準点」CGAC ガリシア現代美術センター（サンディアゴ・デ・コンポステーラ, スペイン）
- 「グローバル・シティズ」ターバイン・ホール、テート・モダン（ロンドン, イギリス）
- 「美麗新世界—当代日本視覚文化」北京・東京アートプロジェクト（北京, 中国）、広東美術館（広東, 中国）
- 2008年 「建築の記憶-写真と建築の近現代」東京都庭園美術館（東京）
- 「アートは心のためにある：UBSアートコレクションより」森美術館（東京）
- 2010年 「断絶と連続」ヒューストン美術館（ヒューストン, アメリカ合衆国）
- 「地平線のない風景」シュロス・モイランド美術館（ベドブルグ・ハウ, ドイツ）
- 「ビヨンド・メディエーションズ」ポズナン・ビエンナーレ（ポズナン, ポーランド）
- 「陰影礼賛」国立新美術館（東京）
- 2011年 「真実、嘘、想像—台日現代写真展」Yi&C.現代アート（台北, 台湾）
- 「所蔵作品展『近代日本の美術』+ 緊急企画『特集 東北を思う』」東京国立近代美術館（東京）
- 2012年 「東北—風土・人・くらし」中華世紀壇世界美術館（北京, 中国）他、2017年まで世界巡回
- 「3.11とアーティスト | 進行形の記録」水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）
- 「ここに、建築は、可能か」第13回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館（ヴェネチア, イタリア）
- 「コレクションの誘惑 II 『自由な泳ぎ手—現代写真の世界』」国立国際美術館（大阪）
- 2014年 「これからの写真」愛知県美術館（愛知）
- 2015年 「The Marseillaise / fifteen years of collecting」ハウス・マルセイユ写真財団（アムステルダム, オランダ）
- 「In the Wake- Japanese Photographers Respond to 3/11」ボストン美術館（ボストン, アメリカ合衆国）
- 2016年 「写真の<原点>再考—ヘンリー・F・トルボット『自然の鉛筆』から」京都国立近代美術館（京都）
- 「Japanese Photography from Postwar to Now」サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ, アメリカ合衆国）
- 2018年 「A Beautiful Moment」Huis Marseille, Museum for Photography（アムステルダム, オランダ）
- 2018年 「『建築』への眼差し」建築倉庫ミュージアム（東京）
- 「カタストロフと美術のちから展」森美術館（東京）
- 2021年 「MOMATコレクション」東京国立近代美術館（東京）
- 「リバーシブルな未来—日本・オーストラリアの現代写真」東京都写真美術館（東京）

宮本隆司（みやもと・りゅうじ）

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/17002/>

1947年東京都生まれ。多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒業。
建築雑誌の編集部員を経て写真家として独立。建築物を中心に、都市の変貌・崩壊と再生の光景を独自の視線で撮影。中野刑務所や日比谷映画劇場など、建築解体現場を撮影した「建築の黙示録」（1986年）や香港の高層スラム建築を撮影した「九龍城砦」（1988年）など、その作品は国内外において高い評価を受けている。1996年に第6回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展に参加し、阪神淡路大震災を取材して撮影した写真「震災の亀裂」で金獅子賞を受賞。

略歴

1947年 東京都生まれ
1973年 多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒業
1989年 第14回木村伊兵衛写真賞受賞
1996年 第6回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館参加（金獅子賞受賞）
1991年 ACC 奨学金を得てニューヨーク滞在
2001-05年 京都造形芸術大学教授
2005年 第55回芸術選奨文部科学大臣賞受賞
2005-17年 神戸芸術工科大学教授
2012年 紫綬褒章受賞
現在、東京都を拠点に活動

主な個展

1977年 「晩香坡・カナダの町から」シミズ画廊（東京）
1986年 「建築の黙示録」ヒルサイドギャラリー（東京）
1988年 「九龍城砦」INAX Gallery（東京）
1989年 「建築の黙示録」ミノルタフォトスペース新宿（東京）
1990年 「Ryuji Miyamoto: Architectural Apocalypse」Min Lowinsky Gallery（ニューヨーク, アメリカ合衆国）
1991年 「Ryuji Miyamoto's photograph: RUINS」Silk Gallery（ソウル, 韓国）
1991年 「Ryuji Miyamoto's photograph: RUINS」Silk Gallery（ソウル, 韓国）
1992年 「Angkor」プティ・ミュゼ（東京）
1994年 「ダンボールの家」ヨコハマポートサイドギャラリー（神奈川）
1997年 「On Hong Kong: Ryuji Miyamoto」The Photographers' Gallery（ロンドン, イギリス）
1998年 「建築の黙示録」ローマ日本文化会館（ローマ, イタリア）
「KOBE 1995 After The Earthquake」Form Zero（カリフォルニア, アメリカ合衆国）
「Ryuji Miyamoto/Toshio Shibata」Centre National de la Photographie（パリ, フランス）
1999年 「KOBE 1995 After The Earthquake+」Museum für Moderne Kunst, Frankfurt（フランクフルト, ドイツ）
2000年 「ピンホールの家」秋山画廊（東京）
「Museum Island」Neues Museum（ベルリン, ドイツ）
2003年 「CARDBOARD HOUSES」photographers' gallery（東京）

- 2004年 「宮本隆司写真展一壊れ行くもの・生まれいずるもの」 世田谷美術館（東京）
- 2008年 「RYUJI MIYAMOTO Pinhole」 KICKEN Berlin（ベルリン, ドイツ）
- 2010年 「Ryuji Miyamoto KOBE」 AMADOR GALLERY（ニューヨーク, アメリカ合衆国）
- 2018年 「首くり栲象・追悼展示」 庭劇場（東京）
- 2019年 「いまだ見えざるところ」 東京都写真美術館（東京）

主なグループ展

- 1987年 「現代のアイコン：かみとひととのものときのなかに」 埼玉県立近代美術館（埼玉）
- 1992年 「都市と現代美術：廃虚としてのわが家」 世田谷美術館（東京）
- 1993年 「About Big Cities」 Neue Gesellschaft für Bildende Kunst（ベルリン, ドイツ）
- 1994年 「カワサキ・モニュメント」 川崎市市民ミュージアム（神奈川）
- 1995年 「写真都市 TOKYO」 東京都写真美術館（東京）
- 1996年 「ヴェネチア・ビエンナーレ建築展 震災の亀裂」 日本パヴィリオン（ヴェネチア, イタリア）
「日本の写真 内なるかたち・外なるかたち 第3部 現代の景色 1980~95」 東京都写真美術館（東京）
- 1997年 「CITIES ON THE MOVE: Urban Chaos and Global Change—East Asian Art, Architecture and Film Now」 Wiener Secession（ウィーン, オーストリア）、Museed'art contemporain de Bordeaux（ボルドー, フランス）、PS-1（ニューヨーク, アメリカ合衆国）、Louisiana Museum of Modern Art（フムレベック, デンマーク）、Hayward Gallery（ロンドン, イギリス）
- 1998年 「写真—可能性の形 ドイツディーゼー銀行コレクション」 原美術館（東京）
「Festival NOW '98: Invisible Cities Kowloon Walled City : The Lost City」 Hong Kong Arts Centre（香港, 中国）
- 1999年 「木村伊兵衛写真賞の軌跡 1975-1999」 川崎市市民ミュージアム（神奈川）
- 2001年 「Wenn Berlin Biarritz ware」 Folkwang Museum（エッセン, ドイツ）
「In Search of FORM」 釜山市美術館（釜山, 韓国）
- 2002年 「傾く小屋：美術家たちの証言 since 9.11」 東京都現代美術館（東京）
「ドクメンタ 11」（カッセル, ドイツ）
- 2003年 「Masterplan Museumsinsel Berlin Projekt」 Neues Museum（ベルリン, ドイツ）
「The History of Japanese Photography」 The Museum of Fine Arts, Houston（テキサス, アメリカ合衆国）
- 2004年 「第3回ベルリン・ビエンナーレ」 Martin-Gropius-Bau（ベルリン, ドイツ）
- 2005年 「Beyond Delirious: Architecture in Selected Photographs from the Ella Fontanals-Cisneros Collection」 Cisneros Fontanals Art Foundation（フロリダ, アメリカ合衆国）
「ウナセラ・ディ・トーキョー—残像の東京物語 1935~1992」 世田谷美術館（東京）
- 2006年 「Upsetting the Balance—Contemporary Art at the Zentrum Paul Klee」 Zentrum Paul Klee（ベルン, ドイツ）
- 2007年 「昭和 写真の 1945-1989」 東京都写真美術館（東京）
「崩壊感覚」 東京国立近代美術館（東京）
- 2008年 「アートは心のためにある：UBS アートコレクションより」 森美術館（東京）
- 2009年 「Darkside II—Fotografische Macht und fotografierte Gewalt, Krankheit und Tod」 Fotomuseum Winterthur（ヴィンタートゥール, スイス）
「Degrees of Stillness. Jitka Hanzlova, Ryuji Miyamoto, Hans-Christian Schink, Alfred Seiland」 KICKEN Berlin（ベルリン, ドイツ）
- 2019年 「The 4th Today's Documents: A Stitch in Time」 Beijing Today Art Museum（北京, 中国）
開館 30 周年記念特別展「美術館の七燈」 広島市現代美術館（広島）
- 2010年 「The Lucid Evidence—Fotografie aus der Sammlung The Photography Collection」 Museum für Moderne Kunst, Frankfurt（フランクフルト, ドイツ）

- 「陰影礼讃—国立美術館コレクションによる」国立新美術館（東京）
- 2012年 「対話する時間—世田谷美術館コレクションによる現代美術展」世田谷美術館（東京）
「DAIWA COLLECTION V 新しい写真の展開」沖縄県立博物館・美術館（沖縄）
国立国際美術館35周年記念展「コレクションの誘惑」国立国際美術館（大阪）2011 「路上」東京国立近代美術館（東京）
- 2013年 「アートがあれば119人のコレクターによる個人コレクションの場合」東京オペラシティ—アートギャラリー（東京）
- 2014年 「ジャパン・アーキテクツ 1945-2010」金沢 21 世紀美術館（石川）
- 2015年 「Hong Kong Arts Centre Annual Flagship Exhibition Familiar Otherness: Art Across Northeast Asia」Hong Kong Arts Centre（香港, 中国）
「Inspiration in the Face of Adversity」Museum of Fine Arts, Boston（ボストン, アメリカ合衆国）
- 2016年 総合開館 20 周年記念 TOP コレクション「東京・TOKYO」東京都写真美術館（東京）
- 2017年 「Japan-ness. Architecture and urbanism in Japan since 1945」Centre Pompidou-Metz（メッス, フランス）
「日本の家 1945 年以降の建築と暮らし」東京国立近代美術館（東京）、Barbican Center（ロンドン, イギリス）
「MAM Collection 005: リサイクル&ビルド」森美術館（東京）
- 2018年 「建築×写真 ここのみ在る光」東京都写真美術館（東京）
「カタストロフと美術のちから展」森美術館（東京）
「『建築』への眼差し—現代写真と建築の位相」建築倉庫ミュージアム（東京）
「東京スケイプ Into the City」世田谷美術館（東京）
「開館 40 周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」国立国際美術館（大阪）

ルイザ・ランブリ

1969年 イタリア生まれ。

ル・コルビュジエやミース・ファン・デル・ローエ、ルイス・バラガンらの近代建築、SANAAやヘルツォーク&ド・ムーロンなどによる現代の建築作品を被写体とし、それら建築の内部空間から独自の視点で撮影した写真作品を発表。構造や時間が生み出す抽象的な像を撮影した作品には、ランブリ自身の私的な経験が映し出されている。

1999年に第48回ヴェネチア・ビエンナーレに参加、空間の体験や空間が呼び起こす主観的な記憶について探究した写真の連作と映像作品を発表。同館は国別パビリオン部門の金獅子賞を受賞。

略歴

1969年 イタリア・コモ生まれ。

2018年 レジデンス / Fallingwater (ペンシルベニア, アメリカ合衆国)

2008年 レジデンス / イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館 (ボストン, アメリカ合衆国)

2008年 レジデンス / Fundación RAC (ポンテベドラ, スペイン)

2003年 レジデンス / Coleção Teixeira de Freitas (リオデジャネイロ, ブラジル)

2002年 レジデンス / MAK Center for Art and Architecture (ハリウッド, アメリカ合衆国)

2000-2001年 レジデンス / International Artists' Studio Programme in Sweden (ストックホルム, スウェーデン)

1999-2000年 レジデンス / 現代美術センター C C A 北九州 (福岡)

1999年 第48回ヴェネチア・ビエンナーレ 金獅子賞受賞

1998-1999年 レジデンス / Delfina Studio Trust (ロンドン, イギリス)

1998年 レジデンス / Nordic Institute for Contemporary Art (ヘルシンキ, フィンランド)

主な個展

1999年 ウィスコンシン大学視覚芸術研究所 (ミルウォーキー, アメリカ合衆国)

ヴィリニウス現代美術センター (ビリニウス, リトアニア)

2000年 ストゥディオ・グエンザーニ (ミラノ, イタリア)

ケンブリッジ大学現代美術館 (ケンブリッジ, イギリス)

2001年 「ルイザ・ランブリ」 ギャラリー小柳/ライス・ギャラリー(東京)、ルートヴィヒスブルク美術館 (シュトゥットガルト, ドイツ)

IASPIS スウェーデン国際芸術家スタジオ・プログラム (ストックホルム, スウェーデン)

2002年 マルク・フォックス (ロサンゼルス, アメリカ合衆国)

2003年 ストゥディオ・グエンザーニ (ミラノ, イタリア)

2004年 「Locations展」メニル・コレクション (ヒューストン, アメリカ合衆国)

2005年 マルク・フォックス(ロサンゼルス, アメリカ合衆国)

ストゥディオ・グエンザーニ(ミラノ, イタリア)

2006年 「ルイザ・ランブリ」 ギャラリー小柳 (東京)

2009年 「Photographs」Luhring Augustine (ニューヨーク, アメリカ合衆国)

2010年 「Being There」アーマンド・ハマー美術館 (ロサンゼルス, アメリカ合衆国)

2011年 「Luisa Lambri: Certain Variables」Luhring Augustine (ニューヨーク, アメリカ合衆国)

「Luisa Lambri: Interiors」 Ivorypress Art + Books Space (マドリッド, スペイン)

2012年 「Luisa Lambri」 マルクフォックス、West Gallery (ロサンゼルス, アメリカ合衆国)

「Portrait」 イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館 (ボストン, アメリカ合衆国)

2013年 「Luisa Lambri」 Studio Guenzani (ミラノ, イタリア)

- 2019年 「Luisa Lambri」 Parra & Romero Gallery (マドリッド, スペイン)
2021年 「ルイザ・ランブリ」 ギャラリー小柳 (東京)
「AUTORITRATTO」 PAC Padiglione d'Arte Contemporanea (ミラノ, イタリア)
「Luisa Lambri: Lines. Linee」 Thomas Dane Gallery (ナポリ, イタリア)

主なグループ展

- 1998年 「昨日は明日始まる展」(バード・カレッジ学芸員研究センター附属美術館: アナウンダーレ・オブ・ハドソン (ニューヨーク, アメリカ合衆国))
1999年 第48回 ヴェネチア・ビエンナーレ「dAPERTutto」 (ヴェネチア, イタリア)
2000年 「反記憶展」 横浜美術館 (神奈川)
2003年 第50回 ヴェネチア・ビエンナーレ「夢を衝突: 観者の専制」 (ヴェネチア, イタリア)
「グリッドの内側に住む展」 ニュー・ミュージアム、 (ニューヨーク, アメリカ合衆国)
2004年 ヴェネチア・ビエンナーレ 第9回 国際建築展 「メタモルフ」 (ヴェネチア, イタリア)
2005年 「消失点展」 ウェクスナー芸術センター (オハイオ, アメリカ合衆国)
2006年 「Guggenheim Pictures: A Conceptual Portfolio, Solomon R」 グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク, アメリカ合衆国)
2009年 「Collecting History: Highlighting Recent Acquisitions」 ロサンゼルス現代美術館 (ロサンゼルス, アメリカ合衆国)
「Elements of Photography」 シカゴ現代美術館 (シカゴ, アメリカ合衆国)
2011年 「建築、アートがつくりだす新しい環境—これからの“感じ”」 東京都現代美術館 (東京)
2012年 「Lost Line: Contemporary Art from the Collection」 ロサンゼルス・カウンティ美術館 (ロサンゼルス, アメリカ合衆国)
第9回上海ビエンナーレ「Reactivation」 (上海, 中国)
2013年 「At the Window: The Photographer's View」 ゲッティ美術 (シカゴ, アメリカ合衆国)
「WHEN ATTITUDES BECAME FORM BECOME ATTITUDES」 デトロイト現代美術館 (デトロイト, アメリカ合衆国)
2016年 「Still Life with Fish: Photography from the Collection」 アーランド・ハマー美術館 (ロサンゼルス, アメリカ合衆国)
2018年 「『建築』への眼差し—現代写真と建築の位相」 建築倉庫ミュージアム (東京)
「Shape of Light: 100 Years of Photography and Abstract Art」 テートモダン (ロンドン, イギリス)
2019年 「In the Company of Artists」 イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館 (ボストン, アメリカ合衆国)
「Influencers: The Pritzker Architecture Prize」 カーネギー美術館 (ピッツバーグ, アメリカ合衆国)
2020年 「別の壁からの写真、ポントのハイスマルセイユのコレクション」 デポント美術館 (ティルブルフ, オランダ)
2021年 「製作された風景」 カーネギー美術館 (ピッツバーグ, アメリカ合衆国)

トーマス・ルフ

1958年、ドイツ、ツェル・アム・ハルマースバッハ生まれ。1977年から85年までデュッセルドルフ芸術アカデミーでベルント&ヒラ・ベッヒャー夫妻のもとで写真を学び、ドイツ人家庭の典型的な室内風景を撮り続けた「Interieurs（室内）」シリーズを皮切りに、友人たちの肖像を巨大に引き伸ばした「Porträts（ポートレート）」で大きな注目を集める。ルフ自身が「実物大でやるとリアリティに密着しすぎ」と述べる通り様々な研究の末にこのサイズに落ち着いた。本シリーズでは人物の顔が、最大限の可視性をそなえたスペクタクルとして表現される。1980年代末以降は写真作品にデジタル処理を導入するとともに、1996年からのインターネット上に氾濫する画像にマニピュレーションを加えた「nudes」「jpeg」といったシリーズ、あるいは、探査機がとらえた火星などの天文写真に加工を施す「cassini」2008年、「ma.r.s.」2010年など、他者が撮影した写真を素材としてイメージそのものの再構築を試みる。ルフは、インターネット上には膨大な画像が循環しており「そうした状況の下で、画像の視覚的な百科事典をつくりたかった」と述べる。

略歴

- 1958年 ドイツ、ツェル・アム・ハルマースバッハ生まれ
- 1977年 デュッセルドルフ芸術アカデミーに入学
- 1982年 奨学金を受け、パリで半年間滞在制作
- 1985年 ユルゲン・ポント財団賞受賞
- 2000年 デュッセルドルフ芸術アカデミーの教授に就任

主な個展・二人展

- 1981年 「個展」 ギャラリー・リュディガー・シュットレ（ドイツ）
- 1989年 「個展」 ステデライク美術館（アムステルダム、オランダ）
- 2002年 「トーマス・ルフ 写真—今日」 アイルランド現代美術館（ダブリン、アイルランド）他
- 2003年 「1979 TO THE PRESENT」 TATE LIVERPOOL（リヴァプール、イギリス）
- 2009年 「個展」 ハウス・デア・クンスト（ミュンヘン、ドイツ）
- 2012年 「個展」 ハウス・デア・クンスト（ミュンヘン、ドイツ）
- 2016年 「トーマス・ルフ展」 東京国立近代美術館（東京）、金沢21世紀美術館（石川）
「Object Relations」 オンタリオ美術館（トロント、カナダ）
「press++」 David Zwirner（ロンドン、イギリス）（ニューヨーク、アメリカ合衆国）
- 2017年 「トーマス・ルフ 新作展」 Sprüth Magers（ベルリン、ドイツ）
- 2018年 「トーマス・ルフ」 OMR（メキシコシティ、メキシコ）
- 2019年 「Transforming Photography」 David Zwirner（香港、中国）
「tripe & flower.s」 Mai 36 Galerie（チューリッヒ、スイス）
- 2020年 「トーマス・ルフ」 KunstsammlungNordrhein-Westfalen（デュッセルドルフ、ドイツ）
- 2021年 「残像」 国立台湾美術館（台中、台湾）

主なグループ展

- 1988年 「第43回ヴェネチア・ビエンナーレ」（ヴェネチア、イタリア）
- 1992年 「Distanz und Nähe」（ドイツ）
- 1992年 「ドクメンタ9」（カッセル、ドイツ）
- 1995年 「第46回ヴェネチア・ビエンナーレ」（ヴェネチア、イタリア）
- 2005年 「第51回ヴェネチア・ビエンナーレ」（ヴェネチア、イタリア）
- 2018年 「Une collection de photographies」 rodolphe janssen（ブリュッセル、ドイツ）

2019年 「Collector's Focus: Tarana Sawhney Online Viewing Room」 David Zwirner (オンライン)